研究計画書

西一階病棟　研究者：加藤麻紀　蟹谷典子　北村三喜子　久保千代美　橘美紀子
山本美保（西１階病棟）　辻めぐみ（西２階病棟）
渡辺寧枝子（内科医師）　池田真由美（精神科医師）

研究テーマ：高齢の動く重症心身障がい者の意思決定支援
～人生観を重視した関わりを振り返る～

キーワード：動く重症心身障がい児（者）、意思決定支援カンファレンス

研究の動機

重症心身障がい児（者）（以下、重心患者）は健常者の1.5倍のスピードで老化が進むと言われており、重心患者の高齢化は喫緊の課題となっている。A病院の重心患者病棟は令和4年時点で平均年齢が52.6歳となり、高齢化に伴う筋力低下や長期臥床生活からくる身体機能の低下によりADLが低下している患者が増えている。

A氏は最高齢の80歳代後半で様々な身体合併症を併発し入退院を繰り返しているが、再入院後にはリハビリや療育活動に励み穏やかな日々を過ごし、数え年で米寿の祝いを行うこともできた。今後の対応についてA氏の代理意思決定者の後見人、キーパーソンは重心病棟での入院継続を希望しており、延命治療は高齢を理由に望んでいない。今回A氏の意思決定支援を行うにあたり、快適に過ごしながら終末期を迎えることについて、どのような関わりや何を必要とすればよいのかに悩み、戸惑いを感じた。杉谷ら[1)]は「看護師には、患者の権利の擁護者として、患者の人権と尊厳を守り、倫理的な行為を行うことが期待されています。倫理に関する知識をもちえたとしても、倫理的に行動出来なければ、結果として患者を害することになるでしょう」と述べている。そこで人生観を重視した関わりについて多職種と意思決定支援カンファレンスし、意見を出しあった結果を実践し効果を考えることを目的とし、今後の課題を明らかにしていきたい。

概念枠組み

多職種で高齢の動く重症心身障がい者の意思決定支援カンファレンスを実施し方向性を共有することでA氏に適した関わりに繋がる。

用語の定義

動く重症心身障がい児（者）：重症心身障害施設（旧国立療養所を含む）に入所している歩行可能な重度・最重度精神遅滞児（者）。ただし、明確な法的定義は存在していない。大島分類1～4に当たる狭義の重症心身障がい児に対して、IQは35以下だが、運動能力の項目として「寝たきり」「座れる」「歩行障害」「歩ける」「走れる」のなかで「歩行障害」「歩ける」「走れる」に該当する者を動く重症心身障が

い児として区別する。
意思決定支援カンファレンス：医師（病棟医長、主治医）、管理職（看護師長、副看護師長）、意思決定支援メンバースタッフ（看護師、療養介護専門員）、病棟スタッフ（受持ち看護師及び療養介護専門員は必須）、コメディカル（児童指導員、保育士、ケースワーカー等）、オブザーバー（病棟以外の管理職、老人看護専門看護師等）で重心患者の今後の生活について話し合うことを目的としたカンファレンスのこと。

研究の目的

高齢の動く重症心身障がい者の人生観を重視した関わりについて多職種による意思決定支援カンファレンスの効果を考える。

仮説

研究方法

1．研究デザイン：単一事例研究

2．対象および期間・場所

対象：氏名　A氏、年齢　80代後半、性別　女性
診断名：重度精神遅滞、2型糖尿病、高血圧、骨粗鬆症
既往歴：頭部外傷、骨折、子宮全摘、食道裂孔ヘルニア
遠城寺式・乳幼児分析的発達検査(R3.10)結果より
基本的習慣：4歳0ヶ月　言語理解：3歳4か月　対人関係：3歳8か月
強度行動障害判定スコア：16点　医療判定スコア：34点

期間：令和5年8月～令和6年9月

場所：西一階病棟

3．データの収集：

1）令和5年8月に病棟師長、主治医、看護師、療養介護専門員、療育指導室、PSW,老人看護専門看護師等のメンバーと意思決定支援カンファレンスを実施する

2）意思決定支援カンファレンスでJonsenの臨床倫理4分割表（別紙4）と臨床倫理検討シート（別紙5）を用い話し合った結果を病棟スタッフにも情報共有し、令和6年4月まで実践する

3）実践の振り返りを評価（カルテより日常の患者の反応、表情、言動を抜粋する、看護計画で評価した内容、療育や行事の写真や動画）

4．データの分析：実践前後の比較をする（暴言、足蹴り・噛みつき等暴力行為、放歌、介護抵抗の回数の増減、誕生会でのおやつ内容）

倫理的配慮：独立行政法人国立病院機構北陸病院の倫理審査会の承認を得て実施を行う予定である。患者情報保護に関する配慮をふまえた上で、所属長の承諾を得て対象

者のインタビューを行う。対象者に依頼する際、研究者が口頭及び文書での研究の趣旨と方法、倫理的配慮について説明し文書で同意を得る。得られたデータは匿名性と守秘性が保障されること、研究成果の発表時には個人を特定できないようにすること、データの保存期限は 5 年間とし保存期間を終えた後は速やかに破棄する。病棟業務に支障をきたさないように配慮する。

個人情報管理：八反副看護部長

文献リスト

1）杉谷藤子・川合政恵、医療人権を考える会、(株)日本看護協会出版会、2011、P70　5-8

2）倉田清子、高齢期を迎える重症心身障害児の問題—加齢を重ねる重症児（者）の臨床的特徴—合併症と死亡原因の検討—、脳と発達、2007、P39　121-135

タイムスケジュール

R6.6 月：研究計画書作成

7 月：倫理審査

7 月～9 月：論文・ポスター作成

11 月：第 49 回日本重症心身障害学会学術集会発表（神戸市）

予測される研究の限界

なし

研究費用